23. 熊本大学大学院先導機構改善計画書

平成28年12月１日現在

領域	改善計画（H27.3.31現在）	改善状況①（H27.12.1現在）	改善状況②（H28.12.1現在）
教育	（法人評価までに改善する計画） 平成27年度の中間評価に向けて、課題の改善に向けた具体的な検討に着手する。	平成27年度の中間評価実施に適切に対応するため、プログラム運営委員会の下に４つのワーキンググループ（プログラム運営、カリキュラム・学生支援、学生獲得、学外連携・キャリア）を設置し、課題改善に向けた検討を行った。	※中間評価は平成27年度で完了した。
	（２年間で改善する計画） 平成27、28年度で、プログラム担当教員のプログラムへの理解と協力のための意識改革を進める。また、行政、企業にプログラムの意義と養成する人材像についてアピールする機会を設けるとともに、産官学共同によるイベント等を開催する。	平成27年5月のプログラムオフィサー（プログラムの進捗状況の確認や、相談、助言等のケアを担当する人）の現地視察に際して、プログラム担当者へのアンケートを実施、平成27年11月の医学教育教授会及び薬学教育部教授会での中間評価の状況を説明を行う等、プログラムへの理解と協力を求めた。 なお、平成28年2月にはインターンシップ報告会を実施予定としており、医学教育部・薬学教育部教員への参加を呼びかけるとともに、インターンシップ受入れ企業の担当者にも参加いただき、学生の実施成果についてアピール（ポスター発表、口頭発表）する予定である。 また、平成27年10月には東京大学主催による「博士課程教育リーディングフォーラム２０１５（企業、官公庁及び研究機関、６２リーディングプログラムが参加）」において、し、博士人材育成の進捗や発展を議論するなど行った。（本学から、学生5名、教職員12名、学外関係者2名が参加した。）	平成28年7月に実施されたHIGOプログラム現地視察（前年度の中間評価における対応状況の確認）の結果について、平成28年7月の大学院医学教育部教授会で報告を行い、プログラムへの理解と協力を求めた。 なお、平成29年2月には「インターンシップ・研究活動報告会」の開催を予定しており、今後、大学院医学教育部・大学院薬学教育部教員への参加を呼びかけるとともに、インターンシップ受入れ企業の担当者にも参加いただき、学生の実施成果についてアピール（ポスター発表、口頭発表）する予定である。 また、平成28年11月に慶應義塾大学主催による「博士課程教育リーディングフォーラム2016（2日間で延べ1086名の参加者（内、企業等149名））」が開催され、参加した企業等に対して、平成30年の春に就職を希望する学生がポスター発表により自己アピールを行った。（本学から教職員4名、HIGOプログラム生8名が参加） 今後も、継続的に医学教育部教授会及び薬学教育部教授会に対してプログラムの活動等の報告を行う等、プログラムへの理解と協力のための意識改革を進める。
	（次の組織評価までに改善する計画） 平成31年度に最終評価が行われるため、平成30年度までに、補助金終了後のプログラムの在り方について結論を得、平成31年度以降もプログラムを存続させるとともに、リーディングプログラムで取り組む大学院教育の全学的展開を図る。	補助金終了後（平成31年度以降）も大学独自の資金により本プログラムを継続することについて学長から理解と了解を得ており、本年度からプログラムの運営についてワーキンググループを中心に、成果や問題点等を分析しつつ、また、支援期間終了後の恒常的かつより効果的なプログラムの自主運用体制の整備について検討を開始した。	前年度においては、プログラムの運営に関し、補助金終了後（平成31年度以降）の恒常的かつより効果的な自主運用体制の整備について検討を行い、平成28年3月に検討結果を学長へ説明をし、HIGOプログラムの存続について理解と了解を得た。 本年度は、再度、自主運用体制の整備及び必要な経費等の精査をし、学長へ説明を行い、補助金終了後におけるHIGOプログラムの自主運用体制等について結論を得る予定である。（平成29年2月に学長へ説明予定）
研究	（法人評価までに改善する計画） インパクトの高いジャーナルリストをWeb上で公開するなど、情報提供を行う。	URA推進室のWebページ（学内限定）に、ジャーナル名、分野名、インパクトファクターのリストを掲載したファイルをダウンロードできるツールを公開し、情報提供が行える環境を整備した。	情報提供のため、URA推進室のWebページ（学内限定）に掲載してある、ジャーナル名、分野名、インパクトファクターのリストを更新した。 また、図書館で導入しているJurnal Citation Reportを活用しジャーナルのインパクトファクターの情報収集ができるように、簡単なマニュアルを作成し、学内の研究者に配布した。
	（２年間で改善する計画） これまで、研究環境に対する要望等のヒアリングを行ってきたが、定期的にその機会を設け必要に応じて改善を行う。	URA推進室を中心として、研究業績を増加させるため支援出来ることや、現行の支援状況についてヒアリングを行った。 平成27年度には、科研費申請・採択増の方針に基づいた若手インセンティブ制度の受領者に対して、支援ニーズの聞き取り等を実施している。 また、研究支援の方針を定める第三期の研究力強化の取り組みについても研究者の意見を聴取し、ニーズに合った支援や研究環境整備のための方針策定に取り組んでいる。	例年実施している科研費インセンティブ受領者に対する科研費応募の事前相談を13名に対し実施した。 また、新たな取組みとして、新任者に対して研究支援等の説明と、支援のニーズ聞き取りを今年度後期から開始し、9～11月に着任した10名の教員に実施した。 さらに、拠点形成研究部門の拠点形成研究事業について、教員へのヒアリングを実施した上で事業内容を再検討し、新たな事業を企画立案した。
	（次の組織評価までに改善する計画） インパクトの高いジャーナル等への投稿を促進するための、若手研究者向け論文セミナー等を開催するとともに、　国際発信を含めた、研究のアウトリーチ活動を積極的に支援するような仕組みを作る。	英語論文の効果的な執筆、構成、または国際誌へ投稿するために必要な知識とノウハウの習得及び促進することを目的に、若手研究者向け論文セミナー「論文執筆スタートアップセミナー」を企画し、12月中に実施する。 また、投稿するジャーナルのレベルアップを図るために、Top10%論文の責任著者に対して、さらに影響力があるジャーナル等へ投稿する際の英文校正や事前査読などを支援する「ランクアップインセンティブ」制度を新設し試行的に実施している。 アウトリーチについては、広報戦略ユニットと協力し、プレスリリースなどの支援を行うほか、EurekAlert!（アメリカ科学振興協会が提供する科学情報などを発信するWebサービス。研究者だけでなく社会にも影響力があり、研究成果をより広く公開することができる。）に登録し、海外へのプレスリリース資料の作成支援にも取り組んでいる。 また、研究内容を一般市民に公開し実際に体験してもらう企画である「サイエンスカフェ」を人文社会科学系の分野においても実施している。	若手の論文投稿を促すために、今年度より新たに若手研究者が論文投稿する際の校正費用を補助する「英文校閲支援事業」を実施し、現時点で10名が利用している。 アウトリーチについては、昨年度に引き続き、広報戦略ユニットと協力し、プレスリリースなどの支援を行うほか、EurekAlert!（アメリカ科学振興協会が提供する科学情報などを発信するWebサービス。研究者だけでなく社会にも影響力があり、研究成果をより広く公開することができる。）に登録し、海外へのプレスリリース資料の作成支援にも取り組んでおり、平成28年には16件の記事を配信した。 また、研究内容を一般市民に公開し実際に体験してもらう企画である「サイエンスカフェ」については、今年度5件の実施を予定している（既に2件実施済み）。 さらに、新しい取組みとして研究者のプレゼンテーションスキルを向上させるために「科学プレゼンテーションセミナー」を外部講師を招聘し実施する予定である。
	（法人評価までに改善する計画） ・人文科学系や生命科学系へのテニュアトラック制の普及・定着について 人文科学系や生命科学系の部局に対して、有効な支援を構築するためにヒアリング調査を実施する。 ・国際的評価（世界大学ランキング）を上げるために、 ①引き続きテニュアトラック教員の公募は国際公募にて実施し、英語による情報提供の強化（HPの充実化）を実施する。 ②国際的競争力をもった研究者を国際公募にて採用する。 ③学内のHPの充実及び英語化することで、留学生や海外研究者に本学の研究内容や研究環境を周知する。	現行の制度の見直しについて、教員へのヒアリング調査を行い、生命科学系（医、薬）の部局に関しては、卓越研究員制度を活用しテニュアトラック制を導入することが決定した。 また、国際的評価を上げるために、平成27年度に、国際公募により1名のテニュアトラック助教を採用した。また、平成27年11月27日よりテニュアトラック助教の国際公募を開始した。 大学院先導機構、テニュアトラック等のホームページを英語化及び充実整備を行い、留学生や海外研究者に本学の研究内容や研究環境を周知している。	平成28年度よりテニュアトラック制度を、より部局が活用できるように見直した。具体的には、これまでの研究費支援額を減額することで、より多くの部局を支援可能な制度とした。また、文部科学省卓越研究員事業を活用し、3名の研究者を医学系、薬学系、理学系において採用した。さらに、国際先端科学技術研究機構において1名のテニュアトラック助教を採用し、平成28年度中にさらに2名のテニュアトラック教員を採用予定としている。 大学院先導機構のホームページを刷新し、情報発信体制の強化に努めた。

領域	改善計画（H27.3.31現在）	改善状況①（H27.12.1現在）	改善状況②（H28.12.1現在）
その他（研究活動推進）	（２年間で改善する計画） ・人文科学系や生命科学系へのテニュアトラック制の普及・定着について ヒアリング調査を元に、具体的かつ有効な支援策を検討する。 ・国際的評価（世界大学ランキング）を上げるために ①引き続きテニュアトラック教員の公募は国際公募にて実施し、英語による情報提供の強化（HPの充実化）を実施する。 ②国際的競争力をもった研究者を国際公募にて採用する。 ③学内のHPを英語化及び充実化することで、留学生や海外研究者に本学の研究内容や研究環境を周知する。 ④海外の研究者が本学にて研究を行いやすい環境整備について他部署と連携し検討を行う。 ⑤留学生が本学に留学しやすい環境整備について他部署と連携し検討を行う。	第3期中期目標期間中の目標値である平成33年度までに10名の新規採用を達成するために、新しい支援制度の見直しを開始している。 特に、人文社会科学系の部局に対してヒアリング調査を行い、人文社会科学系部局に対する支援制度の検討を開始している。 国際的評価をあげるための方策として、平成27年度に、国際公募により1名のテニュアトラック助教を採用した。また、平成27年11月27日よりテニュアトラック助教の国際公募を開始した。 既に国際競争力を有する生命科学系及び自然科学系においては、国際共同研究拠点、国際先端研究拠点を核に、また人文社会科学系においては、新たな研究拠点の創成を図ることにより、国際共同研究の更なる強化と部局の枠を超えた融合的研究を推進し、研究の先鋭化、併せて大学院教育の国際標準化を強化していく。研究環境の充実策としては、URA推進室に英語が母国語であるURAを配置し、海外助成金の情報を英語によるWebサイトにて発信している。また、先導旗構内に外国人研究者が円滑に研究開始を行えるよう支援するコーディネータ職（バイリンガル職員）やセクレタリー職の配置を行っている。さらに、外国人研究者及びその家族等のための宿泊施設やICT 環境、学内施設のサイン等国際的キャンパス環境の整備充実を図っている。 留学生への環境整備としては、シラバスの英語化、多言語版Webサイトの充実を行っている。	第3期中期目標期間中の目標値である平成33年度までに10名の新規採用を達成するために、新しい支援制度を運用している。 国際的評価をあげるための方策として、国際公募によりテニュアトラック助教を採用し、また卓越研究員事業を活用し若手教員を採用した。 さらに、すでに国際競争力を有する生命科学系分野、自然科学系分野においては、それぞれの系の研究を活性化するために国際先端研究機構を設置しており、人文社会学分野においても設置にむけた検討を開始した。これにより国際共同研究の強化、大学院教育の大学院教育の国際標準化を強化していく。 研究環境の充実策としては、URA推進室に英語が母国語であるURAの配置の他、中国語を母国語とし、英語が堪能なURAを平成28年に配置した。これにより英語による情報発信の強化や、中国との共同研究の推進を活性した。また、引き続き大学院先導機構内に、外国人研究者が円滑に研究を行えるように支援するコーディネーター職の配置を行っている。さらに、外国人研究者及びその家族等のための宿泊施設やICT 環境、学内施設のサイン等国際的キャンパス環境の整備充実を図っている。 留学生への環境整備としては、シラバスの英語化、多言語版Webサイトの充実を行っている。
	（次の組織評価までに改善する計画） ・人文科学系や生命科学系へのテニュアトラック制の普及・定着について 構築した新たなテニュアトラック制によりこれまでに未実施部局におけるテニュアトラック制を実施する。 ・国際的評価（世界大学ランキング）を上げるために、 ①引き続きテニュアトラック教員の公募は国際公募にて実施し、英語による情報提供の強化（HPの充実化）を実施する。 ②国際的競争力をもった研究者を国際公募にて採用する。 ③学内のHPを英語化及び充実化することで、留学生や海外研究者に本学の研究内容や研究環境を周知する。 ④海外の研究者が本学にて研究を行いやすい環境を他部署と連携し整備する。 ⑤留学生が本学に留学しやすい環境を他部署と連携し整備する。	第3期中期目標期間中の目標値である平成33年度までに10名の新規採用を達成するために、新しい支援制度の見直しを開始している。 特に、人文社会科学系の部局に対してヒアリング調査を行い、人文社会科学系部局に対する支援制度の検討を開始している。 国際的評価をあげるための重点的取組として、平成27年度に、国際公募により1名のテニュアトラック助教を採用した。また、平成27年11月27日よりテニュアトラック助教の国際公募を開始した。 さらに、国際的にも認知される特色ある質の高い研究を展開し、国際共同研究を強化推進する。生命科学系及び自然科学系においては、国際共同研究拠点、国際先端研究拠点を核に、また人文社会科学系においては、新たな研究拠点の創成を図り、グローバルな国際共同研究ネットワークの拡充・発展を通して国内外の共同研究を先導する。 また、海外の研究者や留学生に対して本学の研究について紹介する「熊大研究年報（仮称）」の作成を開始している。 留学生への環境整備としては、事務職員の語学能力の向上を目的とした研修の充実化を行っている。	第3期中期目標期間中の目標値である平成33年度までに10名の新規採用を達成するために、新しい支援制度を運用している。 国際的評価をあげるための方策として、国際公募によりテニュアトラック助教を採用し、また卓越研究員事業を活用し若手教員を採用した。 さらに、国際的にも認知される特色ある質の高い研究を展開し、国際共同研究を強化推進する。生命科学系及び自然科学系においては、国際共同研究拠点、国際先端研究拠点を核に、また人文社会科学系においては、新たな研究拠点の創成を図り、グローバルな国際共同研究ネットワークの拡充・発展を通して国内外の共同研究を先導する。また、次世代の熊本大学を代表する研究を創出するために、平成28年度に拠点形成研究部門を見直し、新規事業として、「みらい研究推進事業」、「めばえ研究推進事業」を策定し公募を行う。 また、海外の研究者や留学生に対して本学の研究について紹介するために、引き続き「熊大研究年報（仮称）」の作成を行っている。 留学生への環境整備としては、事務職員の語学能力の向上を目的とした研修の充実化を行っている。